

Q10 絵や工作，楽器の演奏などが苦手な子どもには，どう対応したらよいでしょうか

子どもの状態

- 人の顔で鼻を描き忘れるなど，年齢よりも幼い絵になってしまう。
- リコーダーの穴を押さえることができない。
- 定規やはさみの操作が難しい。
- 図工や音楽，家庭の実習等をやりたがらない。

状態の理解のポイント

- ・ 手先が不器用である。
- ・ 目と手の協応が苦手である。
- ・ 視覚的に全体をとらえたり，細部を観察したり，記憶したりする力が弱い。
- ・ 経験不足であったり，失敗経験の積み重ねがあったりする。

考えられる対応

- 目と手の協応を高めるようにする。
 - ・ 単純化した絵を写したり，色塗りをしたりして，「かくこと」に慣れる。
 - ・ 線の上を指やフェルトペンでなぞったり，点と点を線で結んだりする。（図102）
- ピースの少ないジグソーパズルを時間を測って作るなどゲーム的な取組を通して，全体をとらえたり，細部に注意して見たり，それを記憶したりする。
- 貼り絵をしたり，パソコンのお絵かきソフト等を使った^はりして，表現する楽しさや自信をもたせるようにする。
- リコーダーの穴を押さえやすい状況を作る。（図103）

導入時に，指遊びをするなど穴を押さえる活動をゲーム的に取り入れ，手指の巧緻性^ちを高めるようにする。

押さえる穴が少なくてすむ音だけでできた簡単なメロディを使って練習する。

押さえにくい穴は，始めはテープ等で補助的にふさいでおき，徐々にはずしていく。

楽譜とリコーダーの絵をマッチングする。
- よく切れるはさみや紙を選ぶ，フェルトペン等で切る箇所を強調する，いろいろな形（ギザギザ，波形など）に切れるはさみを使うなど，切る楽しさを味わうようにする。
- 作業を進めるために便利な用具を積極的に活用する。（図104）

家庭でも作る楽しさを味わえるような経験を心掛ける。

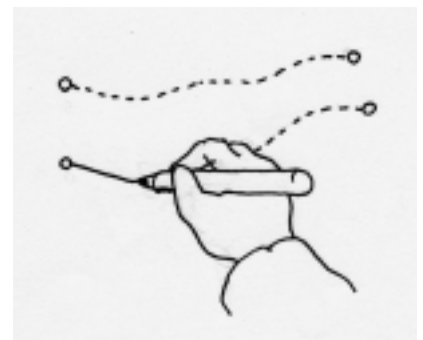


図102 目と手の協応



図103 リコーダーの取組



図104 便利グッズ